

ひろがれ！
みらいの
農ホ水

ネットワーク大津 株式会社
(熊本県菊池郡 大津町)

地下水都市を守る田んぼ。

その昔、熊本藩主・加藤清正公が、白川中流域に用水路を築き水田を開いた。阿蘇の噴火活動が止まらなかった。この辺りの土壌は水が浸透しやすく、水田から供給される地下水は、現在もお地域の生活に欠かせない水源となっている。「ところが米の消費量の低下による水田の減少で、地下水も減少傾向にあるのです」。と語るのは、菊池郡大津町にある県内最大規模の集落営農法人、ネットワーク大津の齊藤社長。水田をフル活用すべく、新たなプロジェクトを始動した。「この地域は畜産が盛んですが、多くの畜産農家が飼料を輸入に頼っています。そこで農家が育てた水稲で混合飼料を作り、畜産農家へ提供するという計画です。畜産農家の瀧内さんも「地元産飼料ならコストが下がらうよ、消費者も安心です。牛のたい肥は、また来年の水稲作に活かしますね」と前向きだ。現代の地下水都市を守ることにつながる集落営農連携プロジェクト。 “土木・治水の神様”と謳われる清正公も、どこかで見守っているだろうか。

農林水産業みらい基金は、助成金を通じてネットワーク大津株式会社の水田の集落を守る混合飼料供給プロジェクトをサポートしています。



一般社団法人
農林水産業みらい基金

未来は、いつだって、現場から生まれる。私たち農林水産業みらい基金は、JA(農業協同組合)・JF(漁業協同組合)・JForest(森林組合)グループの一員である農林中央金庫によって設立されました。

詳しくは [農林水産業みらい基金](http://www.miraikikin.org/) 検索
<http://www.miraikikin.org/>

